



93年度の活動スタート

1993年度の黒埼青年ネットワーク(SNK)の活動がスタートしました。6月5日に総会を開き、昨年の反省と今年の計画を話し合いました。

反省することも多く、会長や副会長に負担が大きくなりすぎたり、定例会に参加できない人が多かったです。しかし、設立1年目としては予想以上に活動ができたように思います。ただ、新しい会員がなかなか集まらないことが悩みです。毎月広報紙でPRしてもどうして入って来ないのだろうか不思議です。この記事をお読みのあなた、関心

があれば、ぜひご連絡を。☎377-3101 社会教育課。

さて、今年度は昨年以上に元気のあるSNKにしたいと思っています。役員は新しい人からなってもらうことになりました。毎月の定例会はなくし、用がある時は、教育委員会に連絡することにしました。一応火曜の夜、教育委員会に係の人がいますので気軽に訪ねられます。

予算は60万円余。うち県と町からの補助金が20万円ずつです。今年度の事業は、茶道やパッチワークなどの学習会、東京などへの視察旅行、美術や音楽のイベントなどです。

実際に視察をさせていたと、松寿大学のレベルの高さに驚くことばかりでした。会員は六十歳以上で最高齢者は八十六歳。老人クラブと違って、あくまでも学習が中心で、学ぶ中に生きがいと楽しみを持つよう



レベルの高い松寿大学

どこの市町村にも寿学級のような高齢者サークルがありません。中でも活発な活動で有名なのが東頸城郡松代町の松寿学級です。五月二十八日、寿学級総勢三十五人で訪ねてきました。

入会希望は社会教育課へ ☎377-3101

寿通信

松代町の松寿学級に脱帽

と、書道、俳句、切絵、千切り絵、樹旨粘土の五つの講座を開催しています。会員数は二百三十名ほどで、講座の講師も会員がしています。行政におんぶにだっこではなく、自主運営をしていることもすばらしいと思えました。

親子でバードウォッチング

8月1日



林を散策し、鳥を観察しましょう。
☑8月1日(日)午前6時総合体育館に集合。11時ごろに帰町 雨天決行
☑新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里
☑どなたでも。できるだけ親子で。小学生は保護者同伴のこと。25人で締切。参加費は無料。
持ち物 双眼鏡がある人は持参ください。
☑ 社会教育課 ☎377-3101



第10回黒埼町 9人制混合 バレーボール大会

▶日 時 7月25日、午前9時～
▶参加資格 高校生以上
▶参加費 2000円
▶会場 総合体育館
▶申し込み 総合体育館 (☎377-5211) まで



遊びのひろば(7月の巻) 餅手芸教室「クッキー皿をつくろう」

☑7月10日(土)午前9時～12時 ☑小学校5・6年生、定員10人(申し込み順) ▶会費 無料 ▶用意するものはさみ、ものさし、エプロン ▶会場、申し込み 北部地区公民館 (☎232-0077)



今月の投稿

- 募集しています
 - 短歌
 - 俳句
 - 随筆
 - イラスト
 - 写真
 - まんが
 - その他
- 町への意見や要望も受け付けます
- 文章は苦手という方はご連絡を取材に行きます
- 匿名もよいです
- 投稿・連絡先は 黒埼町大野281-1 広報「街かど」係 ☎377-3101

街かど

短歌

黒埼短歌会

青柳の芽吹く川辺の夕光に波紋ゆるゆると夫婦鴨ゆくと
小出美喜子

朝もやのまだ晴れやらぬ中空にアドバルンの如朝日のほり来
永田キヨイ

同級会集い寄せたる三十名欠けたる友の噂に暮れぬ
長谷川トリ

行先の病院ならぬをふと思ひコンサートに向う車うれしむ
阿部 淨子

新しき世紀見るまでは死なれぬと古うちしつてテレビ見ており
山田 卯八

「じいちゃん」と肩をたたくばうなずくを笑顔で受けてわれもうなずく
柴垣 きみ

貫きてきびしく生きし明治人夜半の静寂にひそと逝きたり
上山 恵子

梅の花ほのかに匂う日の朝女の孫生まれるの電話のはずむ
笠原 セツ

登校の集団にまじる黄の帽子三つの中のがわが孫
大谷 モト

俳句

黒埼俳句会

アスファルトの舗道押し上げ萌え出でし失る草芽に朝露光る
泉井 ヨ子

萌え出するもみじの芽ぶきいさおいのこもる力の広がりを見ゆ
竹中千代子

わが庭の紅梅の花季すきて色あせつつも命散らす
宮田 みい

杜若つぼみもまたと文の端
季子

そら豆の花から蝶の生まれけり
文雄

卓上のフルーツサラダ風光る
美芳

花言葉知りてパンジー好きになり
モト

明るさをのせて若葉のひろがりぬ
義男

花明りして山吹の揺れてをり
代香

枝をかへ向きを変へては囁れり
憲治

田に水の張られ蛙の夜となりし
多佳

サンングラス外して友と親しめり
千エ子

「井の中の蛙」と成らぬ為に 寿学級 青木一男(鳥原大明)

先日、寿学級の企画により先進地として、県より推奨して載いた東頸松代町の松寿大学との交流会に参加させていただいた。

ここに山間文化圏の形成されていることに驚きを感じた。地域意識の確固さ、自尊心の強固さ、連帯意識の頑固さに脱帽した。老人クラブと松寿大学とは似て非なりと活動していることである。老人クラ

ブは新陸と融和を図ることを重点に、松寿大学は生涯学習に力点を置き、集まって一楽しみ、以下棒線に、学ぶ、語る、動かす、創る、親しむの五原則をスローガンとする。依存型でなく自分たち

の力で行う。娯楽的要素を排したのが特色であろう。開講日は月一回と決まり年間を通じて広報に一覧表が掲載される。午前は一般教養として政治経済文化を学び、午後は書道造形、俳句、千切り絵、切り

絵の五部門の専門講座で知識技能を習得する。校則はもちろん、校歌パッチの制定、学生証の授与とその意欲に圧倒される思いであった。閉鎖性という勿れ、その結束振りにはタジタジ。私共は午前の教養時間を両町交流会の時間に充てた訳だがお互いにエールを送りつつ自学級の紹介にはその自信と誇

りには参ったナと感嘆したのが本音である。その特色を二三上げると、一、講師は、松寿大学に五年以上受講した人に、「松寿学士」の称号を与え、後進のためにその学識を後輩に伝授して行くのだ。講師は外から呼ばず、学内で人選するとか。二、月一回全教科生参集日、徹底した学習熱意、午後から

専門講座を参観させて載いたが、実に和気あいあいである。学び語る創る。三、信頼しきつた受講生の表情が輝いている。私共の質問にも笑顔が返る、心の広さよ。四、町の職員、大学関係者の愛町の熱意、誠意を尽くすとはこの事か。交流会の設営、接待欲振り、細心の配慮、資料の豊富さ、意表を突かれる

ことばかり。平地に住む者は心千々に四方に散るか。起伏の地に住む人は、常に四圍に己の姿を映して自己を研ぎ澄ますということが。井の中の蛙、大海を知らずというが、恥多き一日でありました。

第2回 くるさき寄席



とき 7月30日(金)午後6時開場
ところ 環境改善センター
出演 林家正雀、入船亭扇遊、ダーク広春(奇術)ほか
入場料 前売100円、当日150円
問合せ 教育委員会社会教育課 ☎377-3101

